

| | | | | |
|--------|--|---|-------------------------------|------------------------|
| 学校教育目標 | 自進力！西富岡 ～実感・共感・主体性～ | | | |
| | 【実感】 | <ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動の充実を図り、実感を伴った理解につながる学びを目指します。(知) 自分とつながる様々な人やものとかかわりながら、自分のよさを実感する力を育てます。(徳) | | |
| 【共感】 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で互いの意見を認め合いながら学ぶ態度を育てます。(知) 身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、豊かな感性や思いやりの気持ちを育てます。(徳) | | | 【主体性】 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) 地域に愛着をもち、自分ができることを進んでしようする態度を育てます。(公) 多様な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、持続可能な社会の創造に向け行動しようとする態度を育てます。(開) | | | |
| 学校概要 | 創立 54 周年 | 学校長 武士 雅子 | 副校長 浅野 恭子 | 2 学期制 一般学級：16 個別支援学級：3 |
| | 児童生徒数： 461 人 | | 主な関係校： 富岡中 小田中 能見台小 能見台南小 富岡小 | |

| | | |
|--------------------------------------|-------------|--|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 富岡中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| | | <p>TWO YOU」優・「自己にも他者にも思いやりのある子」 勇・「未来を見すえ、一歩踏み出し、表現できる子」</p> <p>富岡中ブロック自分づくり教育を推進する。 合同授業研究や土曜参観を通じて、教務主任、児童生徒指導専任、養護教諭による相互評価を確実に行う。 子ども像を共有し、情報共有を図りながら生徒指導上の問題や学力不振を改善する。</p> |
| <p>実感する力 共感する力 主体的に取り組む力</p> | | |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | ○「自分の成長を実感しながら主体的に学ぶ子の育成～学び方の工夫と教師のみとりの改善～」を目指し、授業改善を進めます。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・どの子どもも安心して自分らしさを発揮し、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに取り組みます。 ・子どもの思いや願いを生かしながら、協働して主体的に問題解決をしていく授業づくりに取り組みます。 ・子どもたちが自他のよさに気づき、思いやりの心をもってよりよい人間関係を築こうとする姿勢を育てます。 ・身近な自然や様々な人とかかわり、本物に触れる活動や体験を大切に、心豊かな学校生活を送ることができるようになります。 |

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|--------|----------------|---|
| 知 | 授業改善 | これまでの横浜市学力学習状況調査のデータを分析し、研究の効果を合わせながら本校の教育課題に取り組む。また、子どもの思いや願いを踏まえたカリキュラムづくりを国語科を中心に継続して進めていく。①重点研のテーマを「共に学び合う子の育成」とし今年度は、新たに全学年、国語科で研究を行う。「共感性」を授業改善の主軸において授業改善に取り組む。②研究授業を通して、「子どもがいきいき動き出す言語活動」にするための手立てについて検討と検証をしていく。③教師の教育技術や個のみとりと集団での話し合いのコーディネートについても合わせて研究を進めていく。 |
| | 担当 | 重点研推進 |
| 徳 | 道徳教育 | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学級年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、相手意識をもって自ら進んであいさつができるようになる。 |
| | 担当 | 道徳推進教師・道徳 |
| 体 | 健康教育 | ①体力テストの結果を分析し、本校児童の課題をとらえ、その課題に合った運動習慣を身に付けることができる取り組みを運動委員会等を中心として設定する。また、金曜日の中休みを「運動タイム」として設定し、ミニマラソンやなわとび、おにごっこなどの取り組みを生かして、さまざまな運動や遊びに触れる機会を作り、児童の体力向上を目指していく。②生活・学習意識調査の心に関する項目の結果から「心の健康」について学校保健委員会等を通じて取り組んでいく。 |
| | 担当 | 体育・保健・食育 |
| 公開 | 人とのつながり | ①差別をしない・させない・許さないの意識を育て、相手の立場や気持ちを思いやる優しさをもつ子どもを育てる。②自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができ、それが様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにする。③子どもたちの人権感覚を高め、道徳的心情を育てることを目的に4年生～6年生の児童を対象として福祉教育、全校児童を対象として人権キャラバンを実施する。 |
| | 担当 | 人権・福祉 |
| | いじめへの対応 | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止の検討を組織的に行う。②いじめについての研修を行い、教職員のいじめに対するアンテナを高める。③定期的に児童のいじめアンケートを行い、その結果を共有しながら少しの変化も見逃さない体制づくりをする。④「傍観者」に焦点を当てたいじめ防止の授業を行い、いじめを見逃さず見逃さない・見逃さない意識を高める。⑤「すぐる」を通して学校の取組を発信し、家庭に周知できるようにする。 |
| | 担当 | いじめ防止対策委員会 |
| | 人材育成・組織運営(働き方) | ①メンターチームを組織し、自分たちのニーズに合った研修や授業研を計画し、教科主任や助言者のサポートを受けながら悩みを解決したり授業力の向上を図ったりする。②高学年では教科分担を行い、教材研究の時間を確保する。③業務の精選、効率化、情報の共有化を図り、教職員の働き方改革をより推進する。④定期的に教務会を行い、ブロックリーダーとして学校全体を見通しながら積極的に学校運営に参画していくようにする。 |
| | 担当 | 教務・メンター |
| | 地域学校協働活動 | ①地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げたり、地域への愛着を深めたりする。②学校運営協議会を年4回開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換し、学校教育に反映させていく。③今年度より「西富ふわわ隊」の愛称で活動し、積極的に地域の方々に関わり、開かれた学校づくりを進める。④授業参観や懇談会、学校説明会、学校・学年だより、学校ホームページ等を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信し、学校教育への理解を深める。 |
| | 担当 | 教務 |
| | 特別支援教育 | ①支援の必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成する。②校内委員会を定期的に開催し、児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有する。③一般級にいる支援を必要としている児童に対して特別支援教室「あおぞら教室」を設け、一人ひとりのニーズに合わせた指導を行う。④「すぐる」を通して学校の取組を発信し、家庭に周知できるようにする。 |
| | 担当 | 特別支援 |
| | 児童生徒指導 | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図りながら指導にあたる。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して関係修復にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察、児童本人の端末等を通して健康観察などのデータから実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用しながら受容的な学校・学級風土をつくる。④Y-PIについて、児童指導年間計画を立てて計画的に取り組む。 |
| | 担当 | 児童指導 |
| | 幼保小連携 | ①就学前までの育ちと学びを生かすためにスタートカリキュラムを行い、円滑な接続を図る。②架け橋(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができるよう、スタートカリキュラムを生かしながら学びや生活の基盤を育む。③幼保小職員同士で授業参観や情報交換などをして連携を進める。 |
| | 担当 | 幼保小 |